



発掘された映画たち 2001 ロシア・ゴスフィルムフォンドで発見された日本映画

2月27日(火)～3月24日(土)

フィルムセンターでは、来る二月二十七日から「発掘された映画たち、2001」…ロシア・ゴスフィルムフォンドで発見された日本映画」と題した企画上映を行います。ゴスフィルムフォンドとは、ロシア国立の映画保存所のことです。五万五千タイトルの所蔵を誇る、世界でも有数の映画保存機関です。かねてから、そのコレクションのなかに、少なからぬ日本映画が存在することが噂されてきました。その日本映画コレクションのなかに、わが国では失われてしまった戦前・戦中の作品があるかもしれないという推測の背景には、他の国々とは異なるロシア特有の事情がありました。

かつて日本が占領した中国東北部(満州国)に、「満州映画協会」という映画機関があり、在留邦人のために多くの日本映画を輸入公開していました。終戦間際に侵攻したソ連軍がそれらの作品を持ちかえったのではないかというのがその理由でした。フィルムセンターでは、真偽を確かめるためにかねてから努力を続けてきましたが、東西対立の壁は険しいものがありました。この状況が大きく変化したのは、ソビエト社会主義共和国連邦の解体、ロシア連邦共和国の成立でした。

情報の開示、交換が活発化し、その結果として現地調査が可能となりました。所蔵されているものの、題名などが不明のまま、作品の整理が必ずしも十分でないことも明らかになりました。

このためフィルムセンターでは、一九九六年と一九九八年に、ゴスフィルムフォンド(モスクワ郡ベリイ・ストルビー村)において、戦前、戦中に製作された日本映画の調査を行いました。その結果として、わが国には存在しないと思われる作品や、現存作品では欠落している場面が残されているプリントなどを多数確認いたしました。また劇映画ばかりではなく、映像資料として高い価値を有する文化記録映画・ニュース映画も残されていました。そして、この調査報告をゴスフィルムフォンドに伝えるとともに、フィルムセンターにおける上映を実現するための交渉に入りました。この度はそれらの成果としての上映となります。

今回は劇映画を中心に上映しますが、以下、主要な作品の特徴を記しておきます。農民を本格的に描いた作品として映画史的に評価の高い「土」(内田吐夢監督、一九三九年)は、現存する同名作品では欠落しているファースト・シーンが残されていました。「北極光」(田中重雄監督、新藤兼人脚本、一九四一年)は新たに発見された作品で、樺太における豊真鉄道建設を背景にしたメロドラマですが、大規模な現地ロケーションが強い印

象を与えます。「續婦系圖」(マキノ正博監督、一九四二年)「姿三四郎」(黒沢明監督、一九四三年)には、現存プリントでは欠落している重要な場面が残されていました。戦時態勢下で製作された、大映と中華電影の合作映画「狼火は上海に揚る」(稲垣浩監督一九四四年)は大規模な上海ロケを敢行した当時の話題作です。日本、中国、ロシアという隣国の歴史のなかから甦った作品をお楽しみください。



「北極光」



「土」

東京国立近代美術館フィルムセンター(二階大ホール)
〒104-0031 東京都中央区京橋三丁目一六
番三三三三二七二八六〇〇(ハローダイヤル)
10:30～18:00(入館は閉館30分前まで) 毎週日・月曜休館
HP: <http://www.nomat.go.jp/>